ＳＮＳ教育プログラム　レッスン１　学習指導案

１　単元名　　　適切なコミュニケーションを考える

２　本時のねらい

インターネットやＳＮＳでのコミュニケーションの特性や問題点を考えることをとおして、

適切なテキストコミュニケーションをする際に、注意したり、意識したりしなくてはならないことに気付くことができる。

３　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **時間** | **学習活動** | **指導上の留意点** |
| 導入（３分） | ・本時の流れを確認する。 |  |
| 展開１（20分） | ・人とのコミュニケーションの際に、意識していることや気を付けていることを振り返る。発問１：私たちは生きていくために人とコミュニケーションをする必要があります。コミュニケーションをする際に意識することはありますか。＜予想される生徒の発言＞　・相手の目を見て　・言葉遣い　・身振り手振り　・頷く発問２：テキストコミュニケーションの特性をグループで話し合い、３点以上、ワークシートに記述しよう。・「テキストコミュニケーション」の特性についてグループ内で発表し合い、ワークシートに記述する。＜予想される生徒の記述＞　・誰とでもつながる　・一瞬で伝わる・真意が伝わらず誤解されることもある・教師の説明を聞き、インターネットの特性をワークシートに加筆する。 | ・ワークシートを配付し、今まで教わったコミュニケーションの方法を記入させる。・相手に伝わる話し方のポイント・相手の話を聴くときのポイント・メラビアンの法則を紹介する。（コミュニケーションは言語情報だけでなく、非言語情報も非常に重要である。「何を言うか」も大事だが、それを「どう言うか」「どういう態度で」ということはさらに重要であると確認する。）・生徒にインターネットの特性を発表させ、以下のことを補足説明する。【インターネットの特性】　・簡単に複製（コピー）できる　・瞬時に拡散　・場所や人が特定される危険　・完全には消えない |
| 展開２（20分） | ・３～４人グループになる。発問２：言われて嫌な言葉を選びましょう。また、その理由を考えましょう。・各自で言われて嫌な言葉を選ぶ。その後、グループやクラスで他の生徒の考えとの違いを確認する。・言われて嫌な言葉等が、それぞれ違うことを理解し、友人との感覚のズレを自覚する。指示：ＳＮＳ等を適切に利用するうえで安全性を高めるにはどうしたらよいか、注意すべきことは何かをワークシートに記入しよう。＜予想される生徒の反応＞・投稿する前に読み返す・個人情報の取り扱いに配慮する・相手の生活を意識し投稿する　・教師の説明を聞き、インターネットの特性について理解したことをワークシートに加筆する。 | ・それぞれ異なる言葉が書かれている５枚のカードを配付する。・数名を指名し発表させた後、クラス全体を集約し、感覚のズレに気付かせる。・感覚のズレに気付かないままテキストコミュニケーションを続けることが、トラブルにつながることに気付かせる。・生徒に注意すべきことを発表させ、以下のことを補足説明する。　・相手に敬意を払う　・簡単にコピーされてしまうことを前提とする　・場所や人が特定される危険　・完全には消えない　・困ったことがあれば相談する |
| まとめ（７分） | ・絵本教材「デジタルネイティブの君たちへ」を読む。指示：絵本教材を読み、今日の授業で気付いたり、感じたりしたことをワークシートに記述しよう。。＜予想される生徒の記述＞・ＳＮＳ等は、利便なものだけど、様々なリスクを「自分のこと」として自覚し、利用していかなくてはならない。 | ・絵本教材を配付する。・ＳＮＳ等の使用は、相手のことや未来のことを考え続けることが必要であり、「自分のこと」として自覚させ、自律を促す。自律：常に自分の意思で判断しながら行動する他律：他人の命令などによって行動する　　 |

４　教材　　絵本教材「デジタルネイティブの君たちへ」、ワークシート

　　　　　　カード教材「自分と相手の違い」ＳＮＳノート（情報モラル編）26ページ（LINE株式会社）

　　　　　　http://linecorp.com/ja/csr/newslist/ja/2018/190

５　実践するにあたって

　(1) 概要

　　　①ネットでのコミュケーションはテキストコミュニケーションがほとんどであり、「メラビアンの法則」を紹介し、通常のコミュニケーションとの違いを理解させる。

|  |
| --- |
| ○　テキストコミュニケーション・・・文字のみによるコミュニケーション○　メラビアンの法則　　・・・感情や態度について矛盾したメッセージが発せられたとき、人の受けとめ方に及ぼす影響の大きさについての実験結果。話の内容などの言語情報が７%、口調や話の早さなどの聴覚情報が38%、見た目などの視覚情報が55%の割合であった。 |

　　　②言われて嫌な言葉やされて嫌なことが自分と必ずしも同じではないことを体験させ、「感覚のズレ」がＳＮＳ等を利用して起こるトラブルの一因であることを理解させる。

　(2) 基本的なスタンス

　　　・ＳＮＳ教育プログラムでは、機械技術、利用技術、法律等を教えるのではなく、コミュニケーション指導が中心であるという共通認識をもって実施する。

　　　・ＳＮＳやスマートフォンを使わせないということを前提としない。

　　　・「感覚のズレ」という言葉をキーワードとして用いる。

　(3）工夫するとよい点（研究指定校での公開授業、研究協議より）

　　　・「言われて嫌な言葉」については、挙手をすることで、「感覚のズレ」を視覚的に伝えることになる。ただし、その際、少数意見へのフォローが大切である。

　　　・ＳＮＳを活用するうえで、安全性を高めるために注意することについては、次の点が考えられたかを確認する。

　　　　　・投稿により自分自身が伝わるものである。

　　　　　・ＳＮＳやインターネットの技術が進化する中では、リスク等は想像を超える場合もある。

　　　　　・生徒によってＳＮＳの使い方が異なり、それがトラブルの元にもなり得る。

　　　・分からせることよりも実感させることが大切。教え込もうとしなくてもよい。

　　　・ＳＮＳやインターネットで困っていることがあれば、相談に乗ることを伝え、一緒に考えていく姿勢を伝える。

　　　・ＳＮＳに関して保護者とどのように話をしてきたかを確認してもよい。